

漢点字 講習用 テキスト

初 級 編
第 6 回
(全 10 回)

横浜漢点字羽化の会
2013年8月31日

目 次

8 複合文字 (4)

2. 紹介し落とした文字、および	
基本文字にない象形文字・会意文字二十二字	1
24 沿 ㄣ 25 価 ㄣ 26 簡 ㄣ 27 寒 ㄣ 28 漢 ㄣ	
※ 「官 カン」とそれを部首として含む文字三つ。	4
29 官 ㄣ 30 館 ㄣ 31 管 ㄣ 32 追 ㄣ	
※ 「貴」とそれを部首として含む文字一つ。	7
33 貴 ㄣ 34 遺 ㄣ	
35 求 ㄣ	9
※ 「去」とそれを部首として含む文字一つ。	10
36 去 ㄣ 37 法 ㄣ	
38 勤 ㄣ 39 兼 ㄣ 40 困 ㄣ 41 妻 ㄣ 42 勝 ㄣ	
※ 「直」を部首として含む文字二つ。	16
43 植 ㄣ 44 値 ㄣ	
45 針 ㄣ	
♪愛唱歌 「精霊流し」	18
読みの練習 (23)	19
書き取り問題 (23)	21

3. 紹介し落とした文字、および	
基本文字にない象形文字・会意文字二十三字	23
※ 「昔」とそれを部首として含む文字一つ。	23
46 昔 𠄎 𠄏 47 借 𠄐 𠄑	
48 倉 𠄒	24
※ 「品」の下に「木」が置かれた形をつくりとする文字一つ。	24
49 操 𠄓	
※ 「束」とそれを部首として含む文字一つ、プラス一つ。	25
50 束 𠄔 51 速 𠄕	
・ 「束」に似た文字「束」を含む文字。	27
52 策 𠄖	
53 潮 𠄗 54 肺 𠄘 55 背 𠄙 56 半 𠄚	
57 晩 𠄛 58 秘 𠄜 59 飛 𠄝	
※ 「一・口・田」が縦に並んだ形「フ、フク、が	
含まれる文字二つ。	32
60 富 𠄞 61 福 𠄟	
62 仏 𠄠 63 僕 𠄡 64 無 𠄢	
※ 「余」とそれを部首として含む文字一つ。	35
65 余 𠄣 66 除 𠄤	
※ 「令」とそれを部首して含む文字一つ。	37
67 令 𠄥 68 領 𠄦	
♪♪愛唱歌 「翼をください」	39
読みの練習 (24)	40
書き取り問題 (24)	42
ティータイム 『声に出して読みたい日本語』より	
「竹取物語」	44
【附】既習漢点字一覧	45
【附】第一基本文字 (一マス漢点字)	50

8 複文 (4)

2. 紹し落とした文、および

基文にない象文・文

(24) 沿 エン そ-う

「さんずい」の側側に「八」と「口」が縦に並んで置かれた文です。この側側のつくりが、の流れる様を象っていて、「エン、の音を表します。「さんずい」はをしますので、この文は、がいとところからいへと流れる、その流れの、そこからその流れにいとところを移する、その運を“そう、とって、訓読となりました。“そう、とは、「の流れに沿う、に沿う、塀に沿う、壁に沿う、山に沿う」と、定の長さ・程に従って移すること、そこからにある式や法、積みねられた経験などをつの基準にして、それに倣うというにも用いられます。「沿岸」とは、海や川の岸に沿ったところ、海や川に沿う岸、「沿海」とは、海に沿うところ、陸地にい海という、それぞれにつのを表します。「沿」はに沿う、「沿線」は鉄に沿うというです。「沿」とは、物移り変わり、変遷、歴、「の沿、校の沿」と用いられます。漢では、「(さんずい)」と「(のに)」で表されます。

「岸」 「海」 「」 「線」 「」

* この文のつくり「八」の側に「口」のは、「エン、セン、ショウ、の音を表していて、他の文にも含まれます。漢では、「」で表されます。

(25) 価 カ あたい

「人偏」の側側に「西」に似たのが置かれた文です。「西」に似たのは、物を売り買いする商を表す文です。この“あたい、は、商が物にける値段のことです。

“カ、の音読では、「価格」は、幣で表した価値、値段のこと、「価額」はその額、「代価」は幣で表す価値、物の値段、「価」はきにじて受け取る報酬です。漢では、「(人偏)」と「(西に似た)」で表されます。

「竹値」 「格」 「額」 「代」 「

(26) 簡 カン ふだ

「竹」の「間」が置かれたの文です。昔まだのないころ、文をやの札に書きました。は、その「」でできていることを表しています。「ふだ」という訓読は、その文を書くためのの札のことで。廷の命令や通達、役の書類はこの「ふだ」に書かれました。この文は普通「カン」の音で読まれます。「簡」はの札、「簡」はの札、現でもを「書簡」と呼ぶのはこれにしています。「」やそれ以前の書物は、この「簡」に書かれて紐で綴じられました。「簡」は、込みっていないこと、軽いこと、「簡」は、軽で利、「簡易」は、軽なこと、容易いこと、「簡潔」は、表現が領を得ていること、くだくだしくない表現、「簡」は、簡ではっきりしていること、「簡略」は、かいたところを略して簡であることです。ここで「カン」は、軽であること、ごちゃごちゃしていないことというを表しています。その他に、「簡択」は選びす、「簡閲」は選んで調べる、「簡拔」は選んで抜きすというで、ここでは選びすというを表します。しかし、あまり用されません。漢では、「竹」(竹)」と「間」(間)」で表されます。

「簡易」 「簡潔」 「簡略」 「簡択」 「簡閲」 「簡拔」 「書簡」

(27) 寒 カン さむい

建物の屋を表す「ウ」の「」に、壁を築いて寒さを防ぐ、その「」に「にすい」が置かれたの文です。くは建物の床に敷き詰めて、寒さからを象った文でしたが、現では壁をらして寒さを防ぐに変わりました。「さむい」とは、温度が温が奪われる状態、温度のさでがくじることです。冬の厳しい冷え込み、「つめたい、こごえる」と訓読されることもあります。また「さむい」は、冬の寒さの厳しい節には作物の収穫もないところから、「乏しい、貧しい」というに用いられることもあります。「カン」の音読では、「寒のり」、「寒、寒」と、冬の寒さを暦で表すとして用いられます。「寒り」とは、冬寒い期

に、おまつりや神まつりにおまつりりをすること、「寒垢離」とは、冬寒の厳しい時期にを被つてその冷たさに耐える修いです。「寒鱈」は冬に捕れる魚の鱈、「寒鯉」は、冬捕れる魚の鯉、れもあぶらがつって美いな魚です。「寒風」は冷たい風、「極寒」は厳しい寒さ、寒さの厳しい地帯、「寒帯」は、地球で緯緯度を越える地帯で、夏至には陽はあり、冬至には陽はありません。冬咲く花を特に、「寒桜」「寒梅」「寒椿」「寒牡丹」などと呼びます。「寒気」と書いて、音読では「カンキ」、訓読では「さむけ」と読みます。漢文では、「ウ」と「にすい」で表されます。寒さを防ぐはは省略されました。

「まつりのまつり」 「まつり」 「まつり」 「まつり」
 「まつり垢離」 「まつり鱈」 「まつり鯉」 「まつり風」 「まつり」
 「まつり帯」 「まつり桜」 「まつり梅」 「まつり椿」 「まつり牡丹」
 「まつり気」

(28) 漢文 から

この文漢は、「漢文」という川の名にまつりしているもので、まつりする「さんずい」とそのまつり側に置かれる「カン」の音を表すまつりからまつりしています。この文漢のつくりは、まつり物のあぶらをまつりでまつりやすまつりを象まつりっていて、「乾いたもの」というまつりを表します。「漢文」は陝西省にまつりしてまつりに流れて、長江に注ぐ川です。昔、この川の流域を「漢」と呼んでいました。まつり前まつりに、この地帯の王であった劉邦が、始皇帝亡き後の秦を倒し、ライバルであった楚のまつりの王・項羽を破まつりって、まつりを統まつりしました。このまつりは「漢」と呼ばれますが、このように漢の地帯からまつりたまつりがまつりを統まつりしたことにより、この王まつりは以後まつりに渡まつりって統治を続けたところから、まつりを代表するまつりという位置まつりけを得ました。現まつりに住んでいるまつりを「漢文族」と呼ぶのも、この統まつりの名にまつりします。同様にまつりたちがまつり用まつりしている文漢の呼び名である「漢文」も、この統まつりにより、まつりという読みは、我がまつりからまつりを呼ぶときに用いられますが、漢文ではこの「漢」の訓読とされます。また「あや」という訓もあって、我がまつりのまつり代のまつりに、まつりからの渡まつりを指すまつりとしてまつり用まつりされました。「カン」の音読には、まつりを指すばかりでなく、他にも幾つかまつりな用まつりがあります。そのまつりつが、「漢文」という川の名にまつりしているところから、まつりを流れる川、「まつりの川」を表すものです。「まつり漢」とは、まつり色に輝いて流

れる川、つまり「𠄎𠄎𠄎𠄎」です。また「𠄎𠄎」という𠄎𠄎𠄎𠄎にも用いられますが、「𠄎𠄎漢、暴漢、酔漢、痴漢、𠄎外漢」と、あまりよい𠄎𠄎われ𠄎はされません。「𠄎𠄎漢」とは、𠄎𠄎ましい𠄎𠄎𠄎𠄎の𠄎𠄎𠄎𠄎です。𠄎𠄎𠄎𠄎を𠄎𠄎𠄎𠄎する熟𠄎では、「漢𠄎」は𠄎𠄎𠄎𠄎の𠄎𠄎𠄎𠄎、「漢𠄎𠄎」は𠄎𠄎𠄎𠄎で𠄎𠄎まれた文𠄎𠄎です。「漢𠄎𠄎」の特徴は、𠄎𠄎つの文𠄎𠄎がそれぞれ𠄎𠄎𠄎𠄎を𠄎𠄎っていること、その文𠄎𠄎を組み𠄎𠄎わせて新たな文𠄎𠄎を作ったり、熟𠄎を作ったりして𠄎𠄎𠄎𠄎を広げるところにあります。𠄎𠄎たちが𠄎𠄎強しているこの「漢𠄎𠄎𠄎𠄎」は、「漢𠄎𠄎」を表す𠄎𠄎𠄎𠄎として川𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎が考𠄎𠄎されました。「漢文」は𠄎𠄎𠄎𠄎の𠄎𠄎𠄎𠄎、「漢籍」は漢文で表された書籍、「漢𠄎𠄎」は漢文で表された𠄎𠄎𠄎𠄎です。「漢音」は漢𠄎𠄎の音読の𠄎𠄎つ、「漢𠄎」は漢𠄎𠄎を音読して読む𠄎𠄎𠄎𠄎、あるいは𠄎𠄎𠄎𠄎の𠄎𠄎です。「漢𠄎」は𠄎𠄎𠄎𠄎の𠄎、𠄎𠄎𠄎𠄎で暮らす𠄎々の𠄎𠄎𠄎𠄎パーセントは「漢𠄎𠄎族」です。漢𠄎𠄎𠄎𠄎では、「𠄎 (さんずい)」と「𠄎」で表されます。「𠄎」は、この文𠄎𠄎のつくり「𠄎𠄎𠄎𠄎」の𠄎𠄎が含まれているところから採用されました。

「𠄎𠄎𠄎𠄎」 「𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎」 「𠄎𠄎文」 「𠄎𠄎籍」
 「𠄎𠄎𠄎𠄎」 「𠄎𠄎音」 「𠄎𠄎𠄎𠄎」 「𠄎𠄎𠄎𠄎」 「𠄎𠄎𠄎𠄎」
 「𠄎𠄎𠄎𠄎族」 「𠄎𠄎𠄎𠄎」 「𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎」 「𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎」
 「暴𠄎𠄎」 「酔𠄎𠄎」 「痴𠄎𠄎」 「𠄎外𠄎𠄎」 「𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎」

※ 「官」とそれを部𠄎𠄎として含む文𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎つ。

(29) 官𠄎𠄎𠄎 カン

「ウ𠄎𠄎」の𠄎𠄎に「口𠄎」が縦に𠄎𠄎つ並んだ𠄎𠄎で、𠄎𠄎𠄎𠄎の「口𠄎」の𠄎𠄎側の縦線が𠄎𠄎𠄎𠄎に繋がった𠄎𠄎の文𠄎𠄎です。昔の𠄎𠄎𠄎𠄎では、戦𠄎𠄎に𠄎𠄎陣する前に、神様に勝利を祈願する儀式が催されました。この文𠄎𠄎はその神様を𠄎𠄎る𠄎𠄎壇を𠄎𠄎置したお宮を象っています。「ウ𠄎𠄎」は建物の屋𠄎𠄎を、その𠄎𠄎の部𠄎𠄎は神様を𠄎𠄎った𠄎𠄎壇を表します。当𠄎𠄎は神様を𠄎𠄎ることと𠄎𠄎の政は別のことではありませんでした。王様が神官の長に就いて儀式・儀礼を𠄎𠄎て、神様からのお𠄎𠄎げを𠄎𠄎きました。その𠄎𠄎に位する神官が役𠄎として、そのお𠄎𠄎げに従って𠄎𠄎を運営しました。この文𠄎𠄎には「つかさ」という𠄎𠄎𠄎𠄎がありますが、「役割、役𠄎」を指します。もう𠄎𠄎つ「おおやけ」とは政𠄎𠄎のことで、かつては𠄎𠄎廷の𠄎𠄎𠄎𠄎でした。またそのまま「官吏、役𠄎」の𠄎𠄎𠄎𠄎としても用いられて、現𠄎𠄎では「カン」の音は、𠄎𠄎や自治𠄎𠄎

の「官」で仕務をする公務員を指して、「警官、検官」と、職務の名称にも用いられます。また「カン」は、「官」の各部の役割のことで、「官」とは、「官」の「官」で組織だった「官」きをするものです。「官」官とは「官、聴、嗅、触」の「官」つの「官」を司る「官」です。「官」では、「官（ウ）」と「官」で表されます。つくりの「官」は、「カン」という音の部「官」を表します。

「官吏」 「官公」 「官報」 「神官」
 「内閣官房長官」 「官級官僚」 「警官」
 「検官」 「内臓官」 「官」
 「運官」 「循環官」 「泌尿官」

(30) 館 カン やかた たち たて

「食偏」の「官」側に「官」を置いた「官」の文「官」です。「官」は「官」壇を「官」った建物を象った文「官」で、神様にお祈りを捧げてお「官」げを「官」くところでした。当「官」の神「官」は「官」を司る役「官」でもありましたので、「官」代が「官」るに従って、「官」が「官」勢集まって「官」を運営する仕「官」をするところという「官」を強くして「官」きました。現「官」では「役「官」、役「官」という「官」に用いられています。この文「官」はこの「官」の「官」側に「食偏」が置かれていますが、これは「舎」と同じ「官」で、「官」が「官」山集まって寛いだり「官」んだりするための建物という「官」を表しています。「やかた」とは、周「官」に塀をめぐらした「官」きな建物で、王室や「官」級「官」僚の住まいとして「官」用されるものを指します。「たち、たて」の訓読は、戦いの前線の「官」さな砦のことで、現「官」でも「函館」（「官海」）、「官館」（「官」）、「官館」（茨「官」）、「官館」（群「官」）、「館山」（「官」）のように、地名としても残っています。「カン」という音読は、現「官」では「図書館、美術館、博物館、官念館」と、公共の、「官」の集まる「官」きな建物を指します。また「旅館、写「官」館、官画館」のように、寛いだり「官」泊したり楽しんだりするための、「官」の集まる建物にも用いられています。「官」では、「官（食偏）」と「官（官）」で表されます。

「図書館」 「美術館」 「博物館」 「官念館」
 「旅館」 「写「官」館」 「官画館」 「官館」
 「官」 「官」 「官」 「官山」

(31) 管(かん) カン くだ

「官(かん)」の(かん)に「官(かん)」が置かれた(かん)の文(かん)です。「官(かん)」は(かん)が多く集まる建物のこと、「(かん)」を(かん)せて、枠組みを決めることを表しています。「くだ」とは、(かん)長く伸びた、(かん)空の筒型のもので、「血管、(かん)管、ガス管」のように、(かん)を気(かん)や液(かん)が流れるものを(かん)います。またその「くだ」でできた楽(かん)、息を吹き(かん)れて演奏する楽(かん)を「管楽(かん)」と(かん)います。我が(かん)や(かん)の(かん)い楽(かん)の「管弦」とは、笛や笙の管楽(かん)と、琴や琵琶の弦楽(かん)を(かん)緒に演奏することを(かん)います。(かん)洋の楽(かん)にも管楽(かん)はあって、(かん)や(かん)でできた「(かん)管楽(かん)」と、(かん)属、主に(かん)鍣でできた「(かん)管楽(かん)」があります。管楽(かん)と弦楽(かん)の編(かん)で演奏するのを、「管弦楽」と(かん)います。「カン」の音読は、枠をはめて全(かん)を「統括する、司る」という(かん)に用いられます。「管理」とは、経営や運営がよい状(かん)に(かん)たれるように維(かん)すること、「管理者、管理職、管理(かん)長、管理(かん)、健康管理、(かん)管理」と用いられます。破産や倒産をした(かん)や(かん)の「(かん)産管理」をする(かん)を、「管(かん)」と(かん)います。「管轄」とは、権(かん)によって支配される範(かん)のことです。(かん)や自治(かん)などの(かん)定の(かん)の及ぶ範(かん)のことです。「管轄区、管轄内、管轄外、管轄違い」などと用いられます。「(かん)管」とは、(かん)切なものを壊したり無くしたりしないように、(かん)に(かん)することです。また「カン」の音読は、筆の軸を指す(かん)として、それを(かん)える(かん)位として、さらに笛などの管楽(かん)を(かん)える(かん)位として用いられます。(かん)では、「(かん) (かん)」と「(かん) (官(かん))」で表されます。

「ガス(かん)」「(かん)」「血(かん)」「(かん)楽(かん)」
「(かん)楽(かん)」「(かん)弦楽(かん)」「(かん)理」「(かん)」
「(かん)轄」「(かん)区」「(かん)」

(32) 追(お) ツイ お-う

「官(かん)」のウ(かん)の(かん)の部(かん)の(かん)に(かん)さなカタカナの「ノ」を(かん)けた(かん)、それに「しんによう」を(かん)えた(かん)の文(かん)です。つくりの「官(かん)」のウ(かん)の(かん)の部(かん)は、戦(かん)に(かん)陣する(かん)に、神様に戦勝を祈願するための(かん)壇を象っています。この文(かん)でも同様に、戦(かん)は当(かん)者双(かん)にそれぞれの(かん)り神がいて、その神様同士も戦いを繰り広げると考えられていました。この文(かん)は、(かん)を(かん)護する神様が、敵の(かん)隊や神様を追って(かん)む(かん)を表しています。「官(かん)」のウ(かん)の(かん)の部(かん)は神様を、「しんによう」は(かん)むことを(かん)します。「おう」

とは、追をくの後を追う、追って捕まえる、追へへと追い詰めてむことです。「ツイ」の音を含む熟では、「追」とは、物の理を追ってめること、「追」とは、支払っていない与を後から払うこと、「追求」とはどこまでも追い求めること、「追及」とは、後ろから追いくこと、責などを責めることです。このように同音異義が山ありますので、ご注文さい。「追跡」とは、後を追う、追をくの後を追うこと、「追跡調査」とは、物やの追きについて調べることです。「追」とは、の後を追ってること、「追従」とは、に追き従うことです。「追憶」とは、過ぎ去ったことを追いいすこと、「追」とは、過去に追ったや追をいいこして偲ぶことです。「追」とは、文の最後あるいは文を表した後に追えてすること、「追伸」とは、の最後に追つけるときに用する、「追」とは、後から追ること、あるいは後を追ること、「追突」とは、自などが後ろからぶつかることです。「追慕」とは、死んだや遠くに離れてしまっを追えなくなったを追しくう、「追悼」とは、死者を悼むこと、「追善」とは、死者を供養するために遺族がうです。「追」（おいわけ）とは、がにされる岐のことで、各地に地名として残っています。では、「（しんによう）」と「（官のウの部の）」で表されます。

「追」 「追」 「追求」 「追及」
「追跡調査」 「追」 「追従」 「追憶」 「追」
「追」 「追伸」 「追」 「追突」 「追慕」
「追悼」 「追善」 「猛追」 「急追」 「追いかける」
「追いかく」 「追いか越す」 「追いか払う」
「追い散らす」 「追い剥ぎ」 「追」（うまおい）
「追」

* 「官」とそれを含む文でした。

※ 「貴」とそれを部として含む文。

(33) 貴 キ とうと-ぶ とうと-い
たつと-ぶ たつと-い

「中」の縦の線のに接して「一」、そのに「貝」が置かれたの文です。この文のの「中」と「一」で表さ

が「遺跡」や「遺産」や「教」に用いたもので、遺跡から掘り出します。「遺跡」は過去の種類の跡、通常は土に埋もれていて、掘り出して調査されます。「遺憾」は「後悔」に似たこと、「遺恨」は恨みを残すこと、しどく恨み続けること、その恨みです。「遺作」は「遺書」に表される前に作者が亡くなって、死後に「遺作」された作品、「遺著」はそのような著作物です。「遺子」は「子ども」が親に似ること、「遺子」は、親から受け継いだもので、「遺子」の核の「遺子」にあつて、身「遺子」を親に似せて作るための設計図と「遺子」われます。「遺失」は忘れて失くしてしまうことで、「遺失物」はその「遺失物」です。「遺棄」とは、「遺棄」して残して「遺棄」することで、法的には犯罪、あるいは責「遺棄」の放棄に当たります。「遺棄」では、「遺棄」（しんじょう）」と「遺棄」（貴「遺棄」）」で表されます。

「遺書」 「遺産」 「遺教」 「遺族」 「遺児」
「遺影」 「遺骸」 「遺骨」 「遺物」
「遺跡」 「遺憾」 「遺恨」 「遺作」 「遺著」
「遺失物」 「遺棄」

* 「貴」 とそれを含む文「遺棄」でした。

(35) 求「遺棄」 キュウ もと-める

この文「遺棄」は、獣の皮を剥いで鞣して、それがばらばらにならないように縛っている「遺棄」を象ったものと「遺棄」われます。「もとめる」という訓読は、「遺棄」に引き「遺棄」せるといふ「遺棄」で、鞣した「遺棄」をばらばらにならないように締め「遺棄」げている「遺棄」に「遺棄」しています。そこから「もとめる」は、自「遺棄」のものにしようとする、探し求める、欲しがるといふ「遺棄」を指して、「遺棄」に商「遺棄」を買い求めることを、「求める」と「遺棄」用するようになりました。「キュウ」の音読では、「求「遺棄」」とは、「遺棄」に「遺棄」こうすること、「遺棄」に引き「遺棄」せられることで、「求「遺棄」」とは、そのように「遺棄」く「遺棄」のことです。政治「遺棄」など指「遺棄」的立場の「遺棄」によく用いられる「遺棄」です。「求愛」は愛情を求めること、「求愛「遺棄」」とは、主に「遺棄」物や鳥の繁殖「遺棄」に用いられます。「求婚」は結婚して欲しいと婚姻を求めることです。「求職」は仕「遺棄」を求めること、「求「遺棄」」は「遺棄」いてくれる「遺棄」を求めることです。「遺棄」求」とは、当「遺棄」こうあるべきとして、地位や状「遺棄」、支払いや「遺棄」為などを「遺棄」に求めること、「請求」とは、交換条件など「遺棄」の取り決めに従って、支払いや「遺棄」為を求めることです。「探求」は探し求めること、「遺棄」求」は「遺棄」処までも「遺棄」い求めることです。「遺棄」では、この文「遺棄」を「水「遺棄」」と「十「遺棄」」を「遺棄」ねた「遺棄」、その「遺棄」肩に「遺棄」の「遺棄」いた「遺棄」と捉えて、

「𠄎 (十𠄎)」と「𠄎 (水𠄎)」で表されます。

「𠄎𠄎𠄎𠄎」 「𠄎𠄎𠄎𠄎」 「𠄎𠄎愛𠄎𠄎𠄎」 「𠄎𠄎婚」
「𠄎𠄎職」 「𠄎𠄎𠄎」 「𠄎𠄎𠄎𠄎」 「請𠄎𠄎」 「探𠄎𠄎」
「𠄎𠄎𠄎𠄎」 「𠄎𠄎めに𠄎𠄎じる」 「探し𠄎𠄎める」
「𠄎𠄎い𠄎𠄎める」 「この𠄎𠄎を買い𠄎𠄎めて𠄎𠄎ました。」

※ 「去𠄎𠄎」とそれを部𠄎𠄎として含む文𠄎𠄎𠄎𠄎。

(36) 去𠄎𠄎 キョ コ さ-る

「土𠄎」の𠄎𠄎にカタカナの「ム」が置かれた𠄎𠄎の文𠄎𠄎です。「土𠄎」は𠄎𠄎は「大𠄎𠄎」で、「大𠄎𠄎」は𠄎が𠄎を𠄎𠄎𠄎𠄎に広げて立った𠄎𠄎を象ったものです。𠄎𠄎のカタカナの「ム」はお祈りを𠄎𠄎れる𠄎𠄎、普通は「口𠄎」の𠄎𠄎で表されますが、ここでは蓋が外れた𠄎𠄎を表しています。お祈りを𠄎𠄎れた𠄎𠄎の蓋が外れている𠄎𠄎は、偽りや凶𠄎𠄎の不吉な𠄎𠄎しを表しています。𠄎はそのような不吉な場𠄎𠄎から離れます。この文𠄎𠄎は、そのようにして𠄎が去って𠄎く様𠄎を表しています。「さる」とは、その場を離れること、引き𠄎𠄎がってよそへ𠄎くこと、引っ込める、取り𠄎𠄎げること、空𠄎𠄎的に距離を置く、𠄎𠄎が空く、𠄎𠄎𠄎𠄎的に隔たる、歳𠄎が過ぎ去る、𠄎がこの𠄎𠄎から去る、𠄎と別れる、不𠄎𠄎なものや危険なものを取り除いたり避けて通ったりするなどを𠄎𠄎𠄎𠄎します。「キョ、コ」の音読は過ぎ去ることや終わってしまったことを表す熟𠄎に多く含まれます。「去𠄎𠄎」は過ぎた𠄎𠄎、前の𠄎𠄎のこと、通常「キョネン」と読まれますが、俳句では「コゾ」と読まれます。「去𠄎𠄎」とは𠄎𠄎ることと去ること、ある𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎の𠄎𠄎憶が、脳裏に𠄎𠄎かんだり𠄎𠄎えたりするときにも用いられます。「去𠄎」は過ぎ去った𠄎々、「去𠄎」は𠄎𠄎𠄎のことです。「去就」はある地位や仕𠄎𠄎を𠄎𠄎めて去るか、そのまま留まるかの𠄎𠄎𠄎𠄎で、「去就が注𠄎される」と用いられます。「過去」は過ぎ去った歳𠄎や𠄎𠄎代で、「カコ」と読まれます。「𠄎𠄎去」はその場を離れること、「𠄎𠄎去」は𠄎𠄎いて、地位や場𠄎𠄎を𠄎𠄎け渡すことです。「死去」と「逝去」は、𠄎𠄎を終えてこの𠄎𠄎から去る、死ぬことです。「除去」と「撤去」は、不𠄎𠄎なものとして取り去ったり𠄎𠄎て去ったりすることです。𠄎𠄎𠄎𠄎地𠄎で自宅へ帰ることを「いぬ」と𠄎います。𠄎𠄎𠄎𠄎を当てるときは、この文𠄎𠄎が用いられます。𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎では、「𠄎 (土𠄎)」と「𠄎」で表されま

は「まずに勤めに通うこと」、「精勤」は「んだり怠けたりせず仕に励むこと」、「欠勤」は勤めを「む」ことです。またお「」では、決まった「刻」に読経があります。これを「勤行」（ゴンギョウ）と「い」、このような読経を「お勤め」と呼んでいます。「（力）」と「」で表されます。「マスの「」は、「キン」の「キ」です。

「」 「」 「」 「」
 「」 「通」 「」 「精」 「欠」
 「行（ゴンギョウ）」 「お勤めに」
 「」 「お勤めお疲れ様」

* 「つとめる」と訓読される文「」は幾つかあります。これまでに「」つ「」て「」ました。「勉」、「勤」です。「」や用いられ「」に微妙な「」違がありますので、充「ご留」さい。

(39) 兼「」 ケン か-ねる

「」の稲を「」っている「」を象った文「」です。「かねる」とは、「」つの仕「」を同「」に「」うこと、「」つを「」つに「」わせること、「」つの役割を「」身に引き受けることです。「兼ね「」わせる、兼ね備える」とは、「」の「」や「」つの「」柄が、「」つ以「」の仕「」や「」格や役割を備えていることです。「兼ね「」う」とは、釣り「」いがとれること、均衡していることです。「」いに遠慮することも「」います。さらに「」詞に続けて「」用されると、「…し兼ねる」となって、…することは難しい、…できない、という「」となります。「…し兼ねない」とは、…してしまうかもしれない、しそうだ、する危険がある、という「」です。「気兼ね」は遠慮すること、「「」るに「」兼ねる」は放っておけない、「」放しにできないことです。「ケン」の音読では、「兼務」、「兼「」」は「」つ以「」の役割を引き受けること、「兼業」は幾つかの「」業に従「」すること、「兼用」は「」つのものを「」、「」通りに「」用すること、「兼「」」は「」わせ「」つこと、「兼併」は「」緒にして「」つにすることです。「A兼B」とは、AとBとを兼ね備えていること、あるいはAの役割とBの役割を兼務していることです。「」では、「」で表されます。「マスの「」は、音の「ケ」を表しています。

「」 「」 「」 「」 「」
 「」 「A」 「」 「」
 「」 「」 「…し」

妻だけ、あるいは「ご妻」として用いて、第3者や第4者の妻の敬称として用いられます。「愚妻」とは、他に自の妻を謙って呼ぶ、「愛妻」は妻を愛しむです。「稲妻」（いなづま）は落雷の放電によってきる強い光で、稲の育ちを促すがあるとされています。「あづま妻」（あづま）とは、「東あづま」と同じく、古くからこの側の地を指したです。「あづま、あがつま、わがつま」などとして、広く地名として現にまで残っていますし、の苗として残っています。では、「（女）」と「」で表されます。「」は、音の「サイ」から採りました。

「新」 「新」 「新」 「新」 「稲」
「」 「」 「」 「」 「賢」
「」 「愛」 「愚」 「切」 「屋」
「切」 「破風」 「をめとらば」

(42) 勝 ショウ か-つ まさ-る すぐ-れる

舟の容に物を、捧げつを象った文です。「月偏」と側面に両で物を捧げつと、そのに「力」が置かれています。「力」は、農耕で用いられるスキの、「月」は、「舟」の文の変化したもので、舟の容を表します。（このテキストでは、「舟」のは、まだしていません）贈り物、嫁りのおともの、束の、収穫の、これらを捧げって贈ることを表す文です。物を贈るとは、より位な位置を確することです。「かつ、まさる、すぐれる」とは、に勝ち、より位なこと、にこちらのをすることです。そこからこの文は、いいこと、素晴らしいこと、誇らしいことを表す熟に含まれています。「ショウ」の音読では、「勝敗」とは、勝ちけ、「勝景」とは、勝ちけ、勝ちけを決めることです。「勝景」は、れた景色、「勝景」は、景色や地がれていること、「名勝」は、景色のな地です。「全胜」は、全部の勝や試に勝つこと、「勝」は、最もれていること、競技で最もいい績をげることです。「勝劣敗」とは、れた者がき残り、劣る者はえてくというです。では、「（月）」と「」で表されます。「」は、「かつ」の音を表しています。

「敗」 「」 「景」 「」 「景」
「名」 「全」 「」 「劣敗」

「直植ち」 「逆植ち」

※ 「直植」を部として含む文つ。

(43) 植 ショク う-える う-わる

「木偏」の側に「直植」が置かれたの文です。「直植」は、「ただす、ただちに」の訓読で、「しい、つぐ」のがあるが、この文の訓読の「うえる、うわる」とは、樹などの植物をつぐ植えることです。「ショク」の音読では、「植物」は地に植えられたもの、から養を吸収して養にしているものです。物と異なって、植えられたところからくことはありません。・、その他に苔や蘘など、多くの類があります。植物を植えることからそのをを広げて、「植」とは、従属する外に、を移住して、農業や商工業などの経済をうこと、そのような地を「植地」といいます。「植」は、版印刷で、原稿通りにを組んで並べる作業です。「移植」とは、植物を植え替えることです。そこからの傷んだところを取り除いて、健康な組織で置き換えること、「臓移植、組織移植」などとうようになりました。では、「(直植)」と「(木)」で表されます。が逆になりました。

「物」 「地」 「」 「移」
「臓移植」 「組織移植」

(44) 値 チ ね あたい

「人偏」の側に「直植」が置かれたの文です。「あたい」の訓読の文はに「価」がっています。はほとんど変わりません。「あたい」とは、やの値のことで、物を売買したり、いたりしたときにる値の総称です。「ね」の訓読では、「値段、値ち、値切り、値崩れ」などと用いられます。「チ」の音読では、「値」とは、このつこの文、どちらも「あたい」の訓読のある文で、ある物の、銭を代としたときの値、あるいはそのや代の評のさで表されます。「値」はの、「値、測値、測定値」などと用いられます。たちに身な値では、健康診断でされる「血圧値、血糖値、尿酸値」などがあります。では、「(人偏)」と「(直植)」で表されます。

「測定」 「血圧」 「血糖」 「尿酸」
 「段」 「ち」 「切り」 「崩れ」

* 「直」を含む文つご紹しました。

(45) 針 シン はり

「金偏」の側に「十」が置かれたの文です。「」は布を縫い合わせるである縫い針のを象った文で、それに偏をけて属製であることを表します。訓読の“はり”は、が鋭く尖っていて、ものを縫うです。縫い針・ち針・留め針と用いられます。そこからの尖ったもの、注射針・レコード針、また刻をす、色々なの盛りなどをすものにも用いられます。音読の“シン”は、向を表す熟に用いられます。「針路」は、磁の針がす向、むべき角、「針」は、指す向、向かうべき向、「指針」は、引き、物事をめる針です。「運針」は、裁縫で、針の運びのことです。“はり”の訓読では、からの治療で、「灸(キュウ)」とともに「針灸」と呼ばれています。では、「(偏)」と「(十)」で表されます。

「針路」 「指針」 「運針」

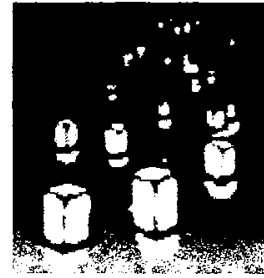
* * * * *

♪ 愛 歌 ♪

精霊流し

さだまさし 作詞・作曲

あなたの思い出が
テープレコーダーから
こぼれています
あなたのためにお友達も
集まってくれました
でこさえたおそろいの
浴衣も今夜はで着ます
せんこうがえますか
空のから



通りにあなたの愛した
レコードも一緒に
流しましょう
そしてあなたの舟のあとを
ついてゆきましょう

のさな弟が
なんにも知らずに
はしゃぎまわって
精霊流しが華やかに
始まるのです

あの頃あなたがつま弾いた
ギターをが弾いてみました
いつのにさびついたで
くすり指を切りました
あなたの愛したさんの
今夜の着物は浅黄色
わずかのに老いて
寂しそうです

通りにあなたの嫌いな
涙はせずに過ごしましょう
そして黙って舟のあとを
ついてゆきましょう

精霊流し

お盆の。「しょうりょうながし」ともいうが、長崎では「しょうろうながし」。長崎身のさだまさしは、亡くなった従弟の精霊流しを題にして、このを作った。

ごみのを縫うように
静かにが通り過ぎます
あなたとのを
かばうみたいに

読みの練習 (23)

- (1) 革を作る。
- (2) この海岸にってりましょう。
- (3) 今のはあるですね。
- (4) にする物。
- (5) それならにできるよ。
- (6) 曆にはとがある。
- (7) あるいいのことです。
- (8) はは族の文でした。
- (9) は外ですから…。
- (10) これは長命令です。
- (11) 図書館のり。
- (12) 族の住むです。
- (13) 函は僕のきなです。
- (14) 空はテレビやラジオに用いられる。
- (15) ドックの検査でを飲んだ。
- (16) 注文のは？
- (17) ウサギいしかの山…
- (18) の。
- (19) 故の志をかす。
- (20) 状をく。
- (21) にされた。
- (22) ではのをいます。
- (23) 静かな場をめてこう。
- (24) それはのでした。

- (25) 過ヒにさかのぼる。
- (26) ヒる者はヒわず。
- (27) 憲ヒはヒ最ヒのヒです。
- (28) 内ヒと外ヒは違う。
- (29) ヒ務ヒをヒってほしい。
- (30) おヒでヒ夕のおヒめ。
- (31) ヒにあの仕ヒはヒまらなかった。
- (32) 今はヒ業農ヒばかりです。
- (33) ヒがヒをヒねてヒく。
- (34) ヒったヒの神頼み。
- (35) ヒに耐えたヒのり。
- (36) ヒのヒいヒ。
- (37) ヒとはヒでもヒします。
- (38) ヒ利宣ヒ。
- (39) せめてヒつ気で戦えよ。
- (40) ヒより気ヒがヒっている。
- (41) 健康がヒれない。
- (42) ヒ物のヒでストレスがヒる。
- (43) 吉野山にヒえてあるヒはヒ？
- (44) 屋ヒにもヒわっていますよ。
- (45) ヒ判断は難しい。
- (46) 物のヒがりにヒる。
- (47) ヒ知ヒのヒをヒめる。
- (48) ヒのヒに糸を通す。
- (49) ヒのヒはヒでヒまっている。

書き取り問題 (23)

- (1) えんどうにはみおくりにながいっぱい。
 - (2) このかいのほうしんにそってはなしましょう。
 - (3) かかくをたかくつけた。
 - (4) じかはそのときのしなもののあたい。
 - (5) かんにしてようをえたはなしです。
 - (6) かんちゅうすいえい。
 - (7) あげがたまでこのさむさがつづく。
 - (8) かんごをつかってぶんをかく。
 - (9) このおとこはねつけつかんですよ。
 - (10) あのにだんめがさんにんかんじよです。
-
- (11) みなみかんをけんがくしましょう。
 - (12) おにのやかたのようですね。
 - (13) たてばやしというとなにけんですか。
 - (14) せんせいがかんがつきをだす。
 - (15) このあいだ、くだをまいたのはだれ？
 - (16) ついきをくわえる。
 - (17) おいかけっこをするあにといもうと。
 - (18) きひんしつにはいる。
 - (19) いぞくはまごがひとりでした。
 - (20) ほうりつようごとしては「いごんじょう」。
-
- (21) おおくのいさんをのこした。
 - (22) きゅうじんをおこなう。
 - (23) しつのよいかみをもとめる。
 - (24) さまざまなおもいがきよらいする。
 - (25) にがにがしいかこのことだよ。
 - (26) いやなことはすてさる。
 - (27) ほうちこっかとはいえないよ。
 - (28) 「のりのみち」とはほとけのおしえです。
 - (29) きんろうかんしゃのひ。
 - (30) てらのおつとめをごんぎょうという。
-
- (31) あのひとにかいしゃはつとまらないよ。
 - (32) あねは、ははおやけんちちおやだった。

- (33) あさとひるのしょくじをかねる。
- (34) かけいはひのくるまでこんきゅうしている。
- (35) こまったこまった、おかねがない。
- (36) さしみのつまがすきなんです。
- (37) さいしにつげる。
- (38) じゅうごにちかんぜんしょうのりきし。
- (39) かちまけはなしにする。
- (40) こめにまさるしゅしょくはないとおもう。

- (41) ひとなみすぐれたたいりよくがある。
- (42) しょくぶつのたねをひろう。
- (43) むらではきをうえた。
- (44) なんのはながうわってるの？
- (45) ほうせきのようにかちがあるえです。
- (46) ふるいいえのねだん。
- (47) いっこくあたいせんきん。
- (48) はりのあなからてんのぞく。
- (49) しんしょうぼうだい。

* * * * *

8 複文 (4)

3. 紹し落とした文、および基文にない象文・
文

※ 「昔」とそれを部として含む文つ。

(46) 昔 セキ シャク むかし

「常用解」によれば、この文は「干し」を表す文、その音“セキ”を借りたものとわれます。部の部はものをねた、は「日」が置かれたです。“むかし”とは、過ぎったのことで、昨あるいはもっと過ぎを指します。「昔」とは、い、のことで、現もお伽などとして親しまれています。俗の資料としてもなものです。“セキ、シャク”の音では、「昔」は昔の、「昔」は過ぎった、「昔」は過ぎったと用いられます。「今は昔」という昔の書きしをの熟では“コンジャク”と読みます。平時代の初期に編まれた「今昔物語」は、当時のにとつての昔を集めたものです。では、「(日)」と「」で表されます。川は、この文の部の部が、「形、研」に含まれる鳥居の、それを逆さにしたであることから、「」を採られたものとわれます。が逆になっています。

「」 「」 「」 「」
「今物語」 「」 「」 「今は」

(47) 借 シャク セキ か-りる

「人偏」の側に「昔」が置かれたの文です。“かりる”とは、のものを借りて用することです。「的に…する」というを含んでいて、「仮(かり)」に通じるです。「借りる」とは、の者がの者からを借りること、あるいは政がから、地や物を借りることをいます。“シャク”の音では、「借」、「借」は、おを借りること、「借地」は地を、「借」はを、「借米」は米を借りることです。「借」は、「ありがたいお借りします」のの謙譲です。「借、借地、借米」とも用されます。では、「(人偏)」と「(昔)」で表されます。

「𠄎𠄎𠄎」 「𠄎𠄎𠄎𠄎」 「𠄎𠄎地」 「𠄎𠄎𠄎」 「𠄎𠄎𠄎𠄎」
「𠄎𠄎𠄎𠄎 (カシャ)」 「𠄎𠄎り𠄎𠄎げ𠄎」 「𠄎𠄎り𠄎𠄎げ地」

* 「昔𠄎𠄎」とそれを含む文𠄎𠄎𠄎𠄎つ、ご紹介𠄎𠄎しました。

(48) 倉𠄎𠄎𠄎 ソウ くら

「食𠄎」の略𠄎𠄎、その𠄎𠄎に「口𠄎」が置かれた𠄎𠄎の文𠄎𠄎𠄎𠄎です。穀物を納める建物を𠄎𠄎𠄎𠄎します。「食𠄎」は𠄎𠄎角屋𠄎𠄎の𠄎𠄎に「良𠄎𠄎」が置かれた𠄎𠄎𠄎で、「良𠄎𠄎」は、粒の揃った穀物、𠄎𠄎のよい穀物を𠄎𠄎𠄎𠄎します。「くら」は、収穫したばかりの、まだ青い米や青𠄎をしまっておくところです。「ソウ」という音には、その青い穀物や𠄎から、「あお」の色を表す𠄎として用いられるようになりました。後にご紹𠄎𠄎するように、「あおい、つめたい」を表す文𠄎𠄎𠄎、「はじめる、きずつける」を表す文𠄎𠄎に、構𠄎𠄎𠄎𠄎素として含まれています。𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎では、「𠄎 (𠄎𠄎角屋𠄎𠄎)」と「𠄎」で表されます。川𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎は、𠄎𠄎角屋𠄎𠄎の𠄎𠄎の部𠄎を、「𠄎」で表されました。

「𠄎𠄎𠄎𠄎」 「𠄎𠄎𠄎𠄎し」

* 𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎では、この文𠄎𠄎の構𠄎𠄎𠄎が「食𠄎」と𠄎𠄎しいことは知られません。

※ 「品𠄎𠄎」の𠄎𠄎に「木𠄎」が置かれた𠄎𠄎をつくりとする文𠄎𠄎𠄎𠄎つ。

(49) 操𠄎𠄎𠄎 ソウ あやつ-る みさお

「手𠄎偏」の𠄎𠄎側に、𠄎𠄎に「品𠄎𠄎」、𠄎𠄎に「木𠄎」が置かれた𠄎𠄎の文𠄎𠄎𠄎𠄎です。𠄎𠄎側の「品𠄎𠄎」は「口𠄎」が𠄎𠄎角𠄎𠄎に𠄎𠄎つ組み𠄎𠄎わされた𠄎𠄎ですが、この「口𠄎」はお祈りを𠄎𠄎れた𠄎𠄎で、それを𠄎𠄎山𠄎の𠄎𠄎に𠄎𠄎けて振り𠄎𠄎して神様にお祈りをする様𠄎を象っていると𠄎われます。「さわがしい」様𠄎を表す𠄎𠄎𠄎です。「あやつる」とは、ものごとをうまく扱うこと、𠄎𠄎𠄎を𠄎𠄎𠄎に𠄎𠄎うこと、船や飛𠄎機を𠄎𠄎かすことなどを𠄎𠄎𠄎𠄎します。また𠄎𠄎𠄎芝居で𠄎𠄎𠄎を扱うことを𠄎つて、その𠄎𠄎𠄎を「操り𠄎𠄎𠄎」と呼びます。そこから、自らは陰に隠れて、𠄎を𠄎𠄎かすことを𠄎うようになりました。「黒幕に操られる」、「あの𠄎が操っているんです」などと用いられます。「みさお」とは、定めた𠄎𠄎𠄎𠄎を

- ・ 「束」に似た文「束」を含む文。

(52) 策 サク

「竹」の「束」に、「束」に含まれる横長の「口」の線の無い文が「束」の文です。「束」の「口」の線の無い「束」は、「束」（「束」つにまとめる）とは異なって、「束」の棒の「束」を削って、尖らせた「束」を象ったものと「束」われます。「束」に「束」が酷似していますので、「束」の符号では「束」と表されます。この「束」は、「束」の尖ったもの、トゲのように突き刺さるもの、痛みを与えるものという「束」を表します。これに「竹」が「束」いたこの文には、普通用いられませんが、訓読として「ふだ、ふみ、はかりごと」があります。さらに「つえ、つえでうつ」という訓もあります。

「ふだ、ふみ」とは、文の書かれた「束」の札のことで、これには「束」の命令が「束」されていました。「はかりごと」は音読の「サク」で組み立てられる熟「束」に「束」されています。「策略、策謀」は、「束」略をめぐる、はかりごとをすること、「策戦」は戦いを「束」めるためのはかりごと、「策士」は「束」んで策略を用いて「束」い通りに物「束」を「束」かそうとする「束」です。「策定」は「束」画などを考えて決めること、「束」策」は「束」の「束」度や「束」件に「束」じて取る「束」段や「束」策、「無策」は適当な「束」策が「束」もないことです。「束、束でうつ」の訓は、「束」の「束」、「束」の尖ったもの、トゲのあるもの、そのようなもので「束」つ刑罰です。「束」では、「束」（竹）と「束」（束）で表されます。

「束」 「束」 「束」 「束」 「束」
「束」 「束」

* 「束、束」を含む文をご紹介します。

(53) 潮 チョウ しお うしお

「さんずい」の「束」側に「朝」が置かれた「束」の文です。訓読の「しお、うしお」とは、海の満ち引きのことで、海の干満は、「束」と「束」陽の引「束」によって「束」じるもので、「束」と夕の「束」あります。この文は、「束」の干満を「束」しています。夕「束」の干満は、「汐」という文があります。今では「束」が広がって海流、あるいは海「束」を指して用いられます。さらに物「束」の程「束」、頃「束」、束「束」期を指す「束」としても用いられます。「束」の音読の熟「束」では、「潮流」は潮の流れ、「束」の

「海潮」はうしお、海の流れ、「潮」は「コウチョウ」と読んで、満潮の最も高い状態、「たかしお」と読んで、台風などで海が荒くなって災害を引き起こすものです。「潮」は引き潮、あるいは勢が衰えること、「満潮」は満ち潮、「干潮」は引き潮です。「しお」の訓読の熟字では、「潮（しおあい）」は海が満ちるところ、ものごとの頃、「潮（しおいり）」は池や川に海が流れ込むこと、流れ込んだところ、「潮汲（しおくみ）」は塩を作るために海を汲むこと、「潮桶」は海を汲む桶です。「潮干狩」は干潮の、干潟にて貝を取る遊び、「潮風」は潮気を含んだ風、「潮（ち）」は船を漕ぎすすむために、潮の差して流れるのをつこと、「潮の」は異なる潮の境です。では、「（さんずい）」と「（）」で表されます。つくりの「」は、「」の「日」が取られました。

「流」「海」「潮」「潮」「満」「干」「潮（しおあい）」「潮（しおいり）」「潮汲（しおくみ）」「潮桶」「潮干狩」「潮風」「潮（ち）」「の」

(54) 肺 ハイ

「肉月偏」の側に「市」が置かれたの文です。「ハイ」は、呼吸を司る内蔵で臓のつです。「こころ」をにする文です。つくりの「」は、「」ではなく、音の「ハイ」を表す、が茂って揺れく様を表す文でした。内蔵の「ハイ」も呼吸によってよくくところから、この文になったとわれます。熟字では、「肺」は肺に菌がって症がこり、熱をする篤な気です。「肺懐」はの、まごころです。「肺肝」は肺臓と肝臓、の、「肺腑」は肺、の奥、「肺」は臓と肺臓です。では、「（偏）」と「（）」で表されます。

「」「懐」「肝」「腑」「」

(55) 背 ハイ せ せい そむく そむける

「肉月偏」の側に「北」が置かれたの文です。つくりの「」は、が背にわせに立っているを象っています。背にわせに立つと、顔をわせることができません。「」の文には「そむく」という訓があります。しかし現ではその高い

る状^ニにあることです。^ニでは、「^ニ」で表されます。「^ニ」は縦と横の線が^ニに交差していることを、「^ニ」は、音の“ハン”を表しています。

「^ニ身」 「^ニ」 「^ニ」 「^ニ」
 「^ニ」 「^ニ」 「^ニ白」 「^ニ通」
 「^ニ」 「^ニ途^ニ端」 「^ニ死^ニ」
 「^ニの^ニば」 「部屋の^ニば」 「宴の^ニば」
 「^ニの^ニば」 「^ニ代の^ニば」 「仕^ニの^ニば」
 「^ニば諦める」

(57) 晩^ニ バン おそ-い おく-れる くれ

「日^ニ偏」の^ニ側に「免^ニ」が置かれた^ニの文^ニです。“ハン”の音読は、夕べ、^ニ暮れ、^ニ没後、^ニがまだ寝ずにいる宵の初め、さらに夜全^ニにも用いられます。“おそい、おくれる”の訓読は、^ニ期が遅いこと、遅くなることで、音読の熟^ニにもその^ニが^ニされます。

“ハン”の音読を含む熟^ニでは、「晩^ニ (ばんがた)」は夕^ニ、暮れ^ニ、「晩照」は夕^ニ、「今晚」は今^ニの晩、今夜、夜は「今晚は」と挨拶します。「晩^ニ」は夕^ニ、また遅く取る^ニ、「晩^ニ (ばんめし)」は夕^ニの^ニ、夕^ニ、夕^ニ、「晩餐」はごちそうの^ニる夕^ニ、「晩酌」は夕^ニの^ニに飲む酒です。「晩^ニ」は^ニの終わりの^ニ期、^ニ老いた^ニ期、「晩期」は晩^ニの^ニ期、^ニ期、「晩^ニ」は^ニの終わりごろ、「晩^ニ」は^ニの終わりごろです。「^ニ晩」は^ニいと遅いこと、遅かれ^ニかれ、「晩^ニ」は^ニが長じてから^ニを始めること、「晩菊」は他の菊に遅れて咲く菊、遅咲きの菊、「晩婚」は^ニを取ってからの結婚、婚期が過ぎてからの結婚、「晩熟」は遅れて^ニ熟すること、「晩^ニ」は^ニ期が遅れて^ニじること、農作物が遅れて^ニ熟すること、「晩^ニ」は遅く^ニがること、遅く^ニ就すること、晩^ニになって^ニ功すること、「^ニ晩^ニ」とは、^ニ物は^ニの現れるのは遅いが、徐々に^ニするものである、の^ニです。^ニでは、「^ニ (ニ偏)」と「^ニ (免^ニ)」で表されます。

「^ニ (ばんがた)」 「^ニ照」 「今^ニ」 「^ニ」
 「^ニ (ばんめし)」 「^ニ餐」 「^ニ酌」 「^ニ」
 「^ニ期」 「^ニ」 「^ニ」 「^ニ」
 「^ニ」 「^ニ菊」 「^ニ婚」 「^ニ熟」 「^ニ」

「𠄎𠄎𠄎𠄎」 「𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎」

(58) 秘𠄎𠄎𠄎 ヒ ひ-める

「ノ木偏」の𠄎𠄎側に「必𠄎𠄎」が置かれた𠄎𠄎の文𠄎𠄎です。偏は、𠄎𠄎は「ノ𠄎偏」ではなく、「𠄎偏」でした。「示𠄎」は、神様に供え物を供える台を象った𠄎𠄎で、「必𠄎𠄎」は、矛や鉞の柄を象った𠄎𠄎です。この文𠄎𠄎は、神様に神聖な矛を供えることを表していて、神聖な供え物は、極めて内密に供えられなければなりませんでした。訓読の“ひめる”とは、供え物が𠄎に知られないように供えられることを𠄎𠄎𠄎𠄎します。他に同じ𠄎𠄎𠄎𠄎から、“ひそか、かくす”とも訓読されます。“ヒ”の音読によって作られる熟𠄎𠄎では、「秘密」は、隠して𠄎に知らせないこと、公𠄎𠄎しないこと、「秘𠄎」は、特殊な𠄎𠄎𠄎𠄎の𠄎𠄎だけで通じる𠄎𠄎𠄎、「秘𠄎𠄎」は、秘密のはかりごとです。「秘儀」は、ひそかに𠄎う儀式、「秘𠄎𠄎」は、秘密にして、特定の𠄎にしか𠄎𠄎えない𠄎𠄎柄、「秘書」は、秘密にして𠄎に𠄎𠄎せない書物、あるいは、𠄎𠄎𠄎𠄎な地位にある𠄎のそばにいて秘密を𠄎𠄎る仕𠄎𠄎をする役の𠄎、「神秘」は、𠄎𠄎𠄎の知恵でははかり知れない不𠄎𠄎議さです。𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎では、「𠄎 (ノ𠄎偏)」と「𠄎 (必𠄎𠄎)」で表されます。

「𠄎𠄎密」 「𠄎𠄎𠄎𠄎」 「𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎」 「𠄎𠄎儀」 「𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎」
「𠄎𠄎書」 「神𠄎𠄎」

(59) 飛𠄎𠄎 ヒ と-ぶ と-ばす

鳥が、羽を広げて飛び立とうとしている𠄎𠄎を象った文𠄎𠄎です。“とぶ、とばす”とは、羽を広げた鳥が空を飛ぶこと、鳥が飛ぶように𠄎𠄎いという𠄎𠄎𠄎𠄎です。“ヒ”の音読では、空を飛ぶ、𠄎𠄎く飛ぶという𠄎𠄎𠄎𠄎から、飛び散る、無責𠄎𠄎に𠄎い散らす、また𠄎𠄎く飛ぶことから「𠄎𠄎く𠄎𠄎がる」という𠄎𠄎𠄎𠄎にも用いられます。「飛𠄎」とは、飛んで𠄎くこと、「飛𠄎機」は空𠄎𠄎を飛ぶ𠄎𠄎り物です。「飛翔」とは、空をゆったりと飛んで渡ること、「飛雲」は、風に吹かれて飛ぶ雲です。「飛𠄎𠄎」は飛んで𠄎𠄎ること、渡り鳥や飛𠄎機などが飛んで𠄎𠄎ることです。「飛散」は飛んで散ること、「飛沫」は飛び散る𠄎しぶきです。「飛書」は急ぎの𠄎𠄎𠄎、「飛脚」は江𠄎𠄎𠄎代の𠄎𠄎𠄎𠄎に𠄎わられていた𠄎𠄎𠄎𠄎業です。「飛𠄎、飛𠄎」は無責𠄎𠄎な噂、𠄎𠄎扱のないデマのこと、「流𠄎飛𠄎」とも用いいられます。「飛び𠄎」は庭などに𠄎𠄎々と敷かれた平らな𠄎で、𠄎がその𠄎𠄎を歩きます。「飛び地」は同じ𠄎政区画であって、飛び離れて𠄎𠄎𠄎𠄎する地域です。

「飛び」はの粉が飛ぶこと、の粉が飛んで離れたところにも災を及ぼすこと、そこから犯罪やスキャンダルが、いもらぬところにまで影響を及ぼすことをも表します。また、どもの染の皮膚を「飛び」と呼んでいます。では、「」と「」で表されます。「」は、この文の「十」のが含まれていること、「」は、「ヒ、」という音から採りました。

「」 「」 「」 「」 「」
「」 「」 「」 「」 「」
「」 「」 「」 「」

※ 「」が縦に並んだ「フ、フク、」が含まれる
文「」。

* 「」が縦に並んだの部は、酒樽にたっぷり酒のつったを象ったもので、物資やの豊富なことを表すとわれます。

(60) 富「」 フ フウ と-む とみ ゆた-か

「ウ」の「」が縦に並んだ「」が置かれた文です。「ウ」は建物の屋、「」が縦に並んだはの豊富な様を表します。「とむ」とはの豊かなこと、「とみ」はその産、「ゆたか」はそのにられてゆったりした様をします。「フ、フウ」の音では、「富強」とは、があっての強いこと、「富豪」は、そのようなち、「富」（フウキ）は産が多く、地位のいいことです。「豊富」はの豊かなこと、物資などが多にあることです。を代表する山・「ふじさん」の「ふ」は、この文が当てられます。「」（ウ）」と「」（「」）で表されます。「」が縦に並んだを、「」で表しました。

「強」 「豪」 「（フウキ）」 「豊」 「士山」

(61) 福「」 フク

「示偏」の側に、「」が縦に並んだ「」が置かれた文です。「示偏」は神様にお祈りを捧げることを表します。「」・

「福」が縦に並んだ「福」は、豊かな「福」、神様に捧げられた豊かな供物を表します。この文「福」には普通用いられませんが、「さいわい」という訓読があります。神様から授けられた幸福、「福」のことです。「フク」の音では、「福寿」とは、幸いと長寿、無事に長生きすること、「福利」は、幸福と利益のことで、現世では「福利厚」と用いられます。「至福」とは、この世なく幸せなこと、「幸福」とは、他者の幸福を願うこと、キリスト教では、神様から受ける幸福のことです。私たちに身近な「福」に「福祉」がありますが、「福祉」は神様から授かった幸福を願っています。現世のように飽くではなかった時代、たっぷり暮らした人の「福々しい」と評しました。「福」（示偏）と「福」（示・示）」で表されます。

「福寿」 「福利厚」 「至福」 「幸福」
「福祉」 「福々しい」 「福は内、福は外」

* 「示・示」を含む文「福」つ、ご紹介しました。

(62) 仏 ブツ フツ ほとけ

「示偏」の側にカタカナの「ム」が置かれた「福」の文「福」です。カタカナの「ム」は、「ブツ、フツ」の音を表す「福」の略「福」です。「ブツ」の音は、経が読まれている梵でお釈迦様のことで、この文「福」は、その音に「福」を当てたものとされます。「ほとけ」という訓読の「福」は色々ですが、「悟りを得た者」の「福」とされます。悟りを得た人は深い慈悲を願っています。そこで、「福」が寛くで他者の過ちを咎めず、滅多に怒りを表さない「福」は、この「ほとけ」に「福」せられます。慈悲の深い「福」は、「福」が陥り易い罪をその広い「福」で許す「福」を願っているとされることから、他者から嫌な「福」いさせられてもいやな顔をしない「福」を「ほとけさん」と呼んで、お「福」しと揶揄的に用いることもあります。また、「福」が「福」を終えてこの「福」を「福」と、「ほとけ」の「福」に向かうと考えられて、死んだ「福」を「ほとけ」と呼ぶようになりました。「ブツ」の音読では、「ほとけ」であるお釈迦様の教えを「仏教」と「福」います。「仏教」は、我が「福」の「福」ではありませんが、「福」の歴「福」が「福」録されるころには「福」に「福」して、我が「福」の「福」、文「福」、政治に「福」きな影響を与えています。「仏」は仏教の教え、「仏」は仏の「福」、「仏」は、仏教の教えが書かれた書物です。「仏像」は、お釈迦様が悟りを「福」かれた姿を象った像で、その「福」きな仏像を「福」仏と呼びます。「福」たちの身の「福」りを「福」ますと、「仏壇」があります。これは

なし」とは、**無**がない、物が**無**ない、**無**し**無**しない、あったものがなくなることです。「ム、ブ」の音読では、「無知」は知識のないこと、知恵のないこと、「無**無**」は**無**も**無**わ**無**ないこと、「無理」は理のないこと、「無名」は**無**に名が知られていないこと、「無**無**」は**無**りのないこと、「無料」は料**無**のかからないこと、ただのこと、「無用」は役に立た**無**ないこと、「無益」は利益にならないこと、「無害」は害のないこと、「無論」は**無**うまでもないことです。「無**無**」は**無**もなく平穩であること、健康であること、「無礼」は礼儀には**無**れること、失礼なことです。「**無**無」は**無**ることと**無**いこと、あるか・ないか、「絶無」は全く**無**いことです。「ム」の音を接頭**無**として**無**の頭に**無**けると、「…ではない」と否定の**無**を表します。「無**無**」は**無**のないこと、「無**無**識」は**無**識**無**していないこと、「無理解」は理解のないこと、「無**無**」は**無**のないこと、**無**を**無**さないこと、「無**無**」は**無**にも**無**情を**無**か**無**されない、**無**のないこと、「無**無**」は宇宙空**無**で、引**無**と遠**無**が釣り**無**って**無**量を**無**じ**無**ない状**無**、「無医**無**」は医者**無**の**無**い**無**、「無住**無**」は住職**無**の**無**い**無**です。**無**では、「**無**」と「**無**」で表されます。「**無**」は音の「ム」を、「**無**」はこの文**無**の**無**にある**無**つの**無**を表しています。ただしこの**無**つの**無**は、「**無**」に**無**するものではありません。

「**無**知」 「**無**」 「**無**理」 「**無**名」 「**無**」
「**無**料」 「**無**用」 「**無**益」 「**無**害」 「**無**論」
「**無**」 「**無**礼」 「**無**」 「**無**」
「**無**」 「**無**識」 「**無**理解」 「**無**」
「**無**」 「**無**」 「**無**医**無**」
「**無**住**無**」

※ 「余**無**」とそれを部**無**として含む文**無**つ。

(65) 余**無** ヨ あま-る あま-す あま-り

無角屋**無**の**無**に「一**無**」、その**無**にカタカナの「ホ」の**無**を置いた**無**の文**無**です。**無**は「食**無**偏」が**無**いていましたが、現**無**では偏が**無**かない**無**で表しています。**無**べ物が**無**山あ**無**て**無**り余る様**無**を象っていると**無**われます。「あまる」とは、**無**や容**無**を越えること、多過ぎて残ること、**無**を越えることを**無**います。**無**を越えること、「**無**に余る」、「**無**に余る」、「**無**に余る」、また**無**を越える

という「ヨ」で、「身に余る光」などと用いられます。「あます」とは、残りがあつた「余すところ…」、余すところなく、また処理できないという「ヨ」で「ヨて余す」などと用いられます。「あまり」は、余つたもの、残つたもの、割り切れなかつたものの「ヨ」です。「ヨ」の音は、余りのあることを表す熟語を作ります。「余裕」とは、「ヨ」にも「ヨ」にも、ゆつたりとゆつりのある様、「余地」とは、「ヨ」かができる「ヨ」のあることを「ヨ」します。「余」は、余つたもの、「ヨ」を越えた、「余」は、「ヨ」を越えて、「ヨ」つて邪魔になるほどという「ヨ」です。「余」は余つた、「余念」は余つた考え、余つた「ヨ」、余「ヨ」は余つたおしゃべり、「余震」は「ヨ」地震に続いて「ヨ」地震です。また「余程」や「余」という「ヨ」もありますが、普通かな書きします。もう「ヨ」つ「ヨ」は、文「ヨ」で、自らを指す「ヨ」として用いられます。「ヨ」代劇などでもよく「ヨ」かれます。「ヨ」では、「ヨ」で「ヨ」角屋「ヨ」を、「ヨ」でその「ヨ」の「ヨ」が表されます。

「ヨ裕」 「ヨ地」 「ヨ」 「ヨ」 「ヨ」
 「ヨ念」 「ヨ」 「ヨ震」 「ヨ」 「ヨ命」
 「ヨ罪」 「ヨ暇」 「ヨ程」 「ヨ」 「ヨ」
 「剩」 「ヨにヨる」 「ヨてヨす」
 「ヨすところ」 「ヨりにひどい」 「ヨヨヨ」
 「ヨヨヨヨヨ」 「ヨは満足じゃ」

(66) 除「ヨ」 ジョ ジ のぞ-く の-ける

「こざと偏」の「ヨ」側に「余」が置かれた「ヨ」の文「ヨ」です。「のぞく」とは、「ヨ」の前にあるものを取り除けて「ヨ」を「ヨ」く、障害を取り「ヨ」る、別にするなどの「ヨ」です。「のける」とは、そこから他の場「ヨ」に移して取り「ヨ」る、「ヨ」はずれにする、あるいは別に取つておく、残しておくなどの「ヨ」です。「ジョ」の音では、「除」とは、前を塞いで邪魔になるものを取り「ヨ」ること、「除外」とは、取り除けること、ある範「ヨ」の外に置くことです。「除籍」は、名簿や「ヨ」籍から外すこと、「除名」は、ある「ヨ」の構「ヨ」から外すことです。「除湿」は湿気を取り除くこと、「除臭」は臭気を取り除くこと、「除菌」は「ヨ」菌を取り除くことです。「排除」は「ヨ」の前にあるものを取り除くこと、「駆除」はネズミや害虫を取り除くこと、「削除」は文書や名簿からその「ヨ」部「ヨ」を削り取ること、「切除」は「ヨ」から臓「ヨ」などを切り取ることです。また「ジョ」は、「ヨ」の「ヨ」つ、「割り「ヨ」」を指す「ヨ」、「ヨ」除」と用いられます。「ヨ」では、「ヨ」（こざと偏）と「ヨ」（余）で表されます。

「**角屋**」 「**外**」 「**籍**」 「**名**」 「**湿**」
「**臭**」 「**菌**」 「**排**」 「**駆**」 「**削**」
「**切**」 「**満**を**く**」
「**け者**」

* 「**余**」を含む文**ご紹**しました。

※ 「**令**」とそれを部**として含む文**。

(67) **令** レイ

角屋の**に**、その**に**カタカナの「マ」の**が**置かれた**の**文**です**。儀礼用の帽**を**被った**が**脆いて、神様からの神託を**く**象**っている**と**わ**れます。神様の**を**く**こと**から、位の**い**の**う**を**く**、「**い**け」や「**みこと**のり」の**を**表**しています**。さらに神様の神託や**のみこと**のりから、「**おきて**」の**にも**用**いら**れます。そこから“せしむ”という訓読が**じ**ました。これは、**文**を訓読する**の**読み**です**。「**詔令**」とは、**の**す**みこと**のり、「**勅令**」は、**治憲**で定めた**皇**の命令**です**。「**令**」は、**律**や命令の総称、**や**のルール、**文**された決まり**です**。「**命令**」は、**位**の者が**位**の者に**す**い**け**、**政機**が**律**を**施**するため**に**定める**令**です。「**省令**」は、**の**役**である**各省の**臣**が**する**命令、「**条令**」は、**地**自治**が**定める**令**です。「**令**」は、**職**を任**する**ときに**される**命令、また**に**する**ときの**遣い、**い**し、「**交令**」とは、**に**を**た**せるための**交**の褒め**です**。この文**には**“リョウ”という音**も**あります。「**律令**」とは、**代**の**で**達した**律**の**を**い**ます**。「**律**」は今の刑**に**、「**令**」は今の**政**に**当**すると**わ**れます。我が**も**に**倣**って、この**制度**を作**って**、**の**運営の基礎**と**しました。当**の**の**制**を「**律令**」と呼**んで**います。「**交**」や「**書**」の**立**も、この制度と深い**がある**と**わ**れます。**では**、「**と**」と「**と**」で表**され**ます。**角屋**を「**屋**」と捉**え**ました。

「**角屋**」 「**命**」 「**詔**」 「**勅**」 「**省**」
「**条**」 「**交**」 「**律**」

(68) 領 領 リョウ

「令」の側に「頁」が置かれたの文です。通常訓読はされませんが、は「えり、くび、おさめる」と訓読される文です。「頁」は頭のを象った文で、「令」と緒になって、に立つ者、に立ってを治める者というに用いられます。

「領」とは、「領」は「領」を、「領」は「領」を指して、のでもな部のです。そこから主なところ、作業や作のコツというがしました。「領域」とは、つのの主権に属している区域、の及ぶ範、などの専とする範をいます。「領」は、つのが治める地域、主権の及ぶ範、「領海」は、そのが治めるの及ぶ海の範、そのに属する海です。どのにも属さない海を、「公海」といます。「領空」は、領と領海の空で、外の航空機はそのの許を得なければ航できません。「領地」は、領としてつ地、「領」は、領地としてつこと、「領」は、領する領地、勢、縄張りです。「領」は、外で自を援助したり護したりする公務です。

「受領」は、を受け取ること、「領収書」は、支払われた代をにする、受領者がするの書です。「統領」は、アメリカを初めとする共ののこと、によってその権には違があります。では、「令 (令)」と「頁 (頁)」で表されます。

「領域」 「領」 「領海」 「領空」 「領地」
「領」 「領」 「領」 「領収書」
「領」 「受領」 「統領」

* 「令」を含む文をご紹介します。

* * * * *

♪♪ 愛 ♪♪ 歌 ♪♪

翼をください

作詞 山路
作 井邦彦

今わたしの願いごとが
かなうならば
翼がほしい
このに鳥のように
白い翼
つけてさい



* この青空に翼をひろげ
んでゆきたいよ
悲しみのない自な空へ
翼はためかせゆきたい

今とか名誉ならば
いらないけど
翼がほしい
供のとき夢たこと
今も同じ
夢にている

* くりかえし

※ 1971年、フォークグループの赤い鳥が、
「の唄」のBとして表した。

読みの練習 (24)

- (1) 遠い国をともいう。
- (2) 今物。
- (3) 国をく。
- (4) ちょっと。
- (5) 的にりだけです。
- (6) 国をてなさい。
- (7) 国のをける。
- (8) 節のないですねえ。
- (9) り。
- (10) 縛されたくない。
- (11) 稲のを作る。
- (12) 国のさで屋の傾きが決まる。
- (13) 髪の毛をねる。
- (14) 路。
- (15) さを競う。
- (16) 旅は足をめた。
- (17) しまった、まったかも。
- (18) がかばない。
- (19) あれはだ！
- (20) この溜まりに、魚が山いるね。
- (21) 黒は暖流、親は流です。
- (20) この溜まりに、魚が山いるね。
- (21) 黒は暖流、親は流です。
- (22) はで呼吸します。

- (23) 循環と循環。
- (24) を伸ばす。
- (25) 後を振り。
- (26) べよう。
- (27) のばに席を立つ。
- (28) さあ、ごにしましょう。
- (29) ベートーベンのは、がこえなかった。
- (30) にめため。
- (31) そのは、の書です。
- (32) 機に初めてった。
- (33) ぶ鳥を落とす勢い。
- (34) キロでをばす。
- (35) 土山は外にも気がある。
- (36) の差が激しくなった。
- (37) にがくらむ。
- (38) にむ。
- (39) あのは我がのの神だ。
- (40) の顔も度まで。
- (41) 教をじる。
- (42) らはきている♪
- (43) 線です。
- (44) をります。
- (45) い袖は振れない。
- (46) 着しではる場。
- (47) 「」という称もある。
- (48) ったよ。

- (49) わりでりがる。
- (50) 不な物は外しましょう。
- (51) 掃当番。
- (52) い物を取りく。
- (53) たまりをける。
- (54) 命をえる。
- (55) 収書がになる。

書き取り題 (24)

- (1) せきじつのおもかげもなし。
- (2) むかしはよかった…はとしよりのくちぐせ。
- (3) しゃっきんのけいさん。
- (4) くるまをかりてきたよ。
- (5) かんじには「かしゃもじ」というのがある。
- (6) しょうそういんのたから。
- (7) むらにはたかいこくもつぐらがある。
- (8) ふるいそうしゃじょう。
- (9) 7カこくごをあやつるひと。
- (10) みさおをたてる。
- (11) おもみのあるやくそく。
- (12) たばにしてすてたよ。
- (13) ほんのあつみをつかという。
- (14) かそくどがつく。
- (15) じそく・ふんそく・びょうそく
- (16) しりぞくのははやいな。
- (17) このんでさくりやくをめぐらす。
- (18) なにかほうさくはありますか？
- (19) まんちょうじにたいふうがくると、たかしおがおそろしい。
- (20) あさがたが、あげしおのじかんです。

- (21) そろそろよいしおどきですね。
(22) みぎのむねに3つ、ひだりのむねに2つのはいようがある。
(23) はいふをえぐられる、こころがいたい。
(24) せのたかいひととひくいひと。
(25) それははいしんこういです。
(26) はんえんけいのつきがはんげつだ。
(27) ひなたにおいたみずがなかばおゆになった。
(28) ばんめしのおかずはなんですか？
(29) そうばんおうとうがあります、まっけていてください。
(30) ひめられたこいごころ。
- (31) このさくはひちゅうのひです。
(32) ひこうせんがとんだ。
(33) ちかくによってとびあがった。
(34) シャボンだまをとばした。
(35) ボタンのはなはふうきですよ。
(36) へんかにとむとちだ。
(37) ふくがつくけんは3つあります。
(38) かまぐらのだいぶつはゆうめいだ。
(39) ぼくのいっしょうはなんだったのか？
(40) むりをいうなよ。
- (41) ぶなんなできあがりだね。
(42) てでもつものはなにもない。
(43) それにはいちごんもなし。
(44) よぶんなことですが …。
(45) ひとでがあまる。
(46) あまりといえばあまりな …。
(47) あますことなくたべましょう。
(48) じょやのかねをえきできく。
(49) おおそうじをする。
(50) いちぶのひとたちをのぞく。
- (51) ごみをはらいのける。
(52) ほうれいをおぼえる。
(53) ようりょうよくうごく。
(54) だいとうりょうがいるくにといないくに。

【附】 既習漢点字一覽

第 1 回

漢数字とその《近似文字》

- 1 一 一 二 二 三 三 四 四 五 五 六 六
 7 七 八 八 九 九 十 十 11 廿 12 百
 13 千 14 万 15 億 16 兆 * ○
 《亜(一)、 参(三)、 丸(九)
 意(億)、 元(兆)》

第一基本文字とその《近似文字》

- 1 目 2 糸 3 系 4 比 5 数 6 家 7 宿 8 学
 9 言 10 語 11 頁 12 貝 13 金 14 木 15 草
 16 犬 17 子 18 都 19 市 20 発 21 食 22 馬
 23 田 24 竹 25 土 26 手 27 戸 28 人 29 仁
 30 水 31 氷 32 力 33 示 34 私 35 走 36 進
 37 火 38 女 39 玉 40 方 41 石 42 耳 43 車
 44 門 45 病 46 行 47 店 48 月 49 肉 50 分
 51 日 52 性 53 心 54 口 55 困 56 十 57 止
 《真 面(目)、 云(言)、 首(頁)、 貝(貝)
 未 末(木)、 由 曲(田)、 永(氷)
 必(心)、 才(十)、 正(止)》

第 2 回

複 合 文 字 (1)

漢数字および第一基本文字を部首とした文字

- 1 林 2 森 3 材 4 相 5 想 6 果
 7 課 8 休 9 保 10 来 11 味 12 体
 13 字 14 宗 15 宝 16 安 17 案 18 穴
 19 究 20 完 21 院 22 軍 23 計 24 早
 25 協 26 直 27 朝 28 世 29 業 30 古
 31 苦 32 枯 33 湖 34 有 35 存 36 在
 37 聞 38 間 39 問 40 開 41 閉 42 回
 43 国 44 固 45 個 46 兄 47 見 48 介
 49 先 50 祝 * 兌 51 説 52 税 53 覚
 54 視 55 界 56 榮 57 勞 58 加 59 賀
 60 化 61 花 62 貨 63 信 64 恋 65 芸
 66 会 67 絵 68 伝 69 転 70 秋 71 畑
 72 炎 73 談 74 点 75 然 76 燃

第 3 回

- | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 77 品 | 78 唱 | 79 單 | 80 和 | 81 合 | 82 給 |
| 83 捨 | 84 答 | 85 員 | 86 損 | 87 史 | 88 使 |
| 89 舌 | 90 活 | 91 舍 | 92 話 | 93 絹 | 94 季 |
| 95 委 | 96 好 | 97 姉 | 98 妹 | 99 男 | 100 細 |
| 101 思 | 102 胃 | 103 油 | 104 典 | 105 惡 | 106 応 |
| 107 係 | 108 孫 | 109 泳 | 110 混 | 111 財 | 112 社 |
| 113 証 | 114 徒 | 115 道 | 116 貧 | 117 防 | 118 明 |
| 119 庫 | 120 連 | 121 更 | 122 便 | 123 能 | 124 態 |

比較文字とその《近似文字》

- | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|
| 1 父 | 2 母 | 3 上 | 4 中 | 5 下 | 6 右 |
| 7 左 | 8 大 | 9 小 | 10 出 | 11 入 | 12 高 |
| 13 低 | 14 優 | 15 良 | 16 可 | 17 東 | 18 西 |
| 19 南 | 20 北 | 21 鶴 | 22 龜 | 23 互 | 24 皆 |
| 25 凸 | 26 凹 | | | | |

《天》、《太》、《夫》(《大》)、《片》(《出》) 《氏》(《低》)》

第 4 回

- | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|
| 27 尺 | 28 寸 | 29 丈 | 30 里 | 31 貫 | 32 勾 |
| 33 斤 | 34 屯 | 35 升 | 36 斗 | 37 勺 | |

《斤》(《斤》)、《丘》(《升》)》

比較文字に類似した漢字

- | | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| 1 乘 | 2 垂 | 3 浮 | 4 沈 |
|-----|-----|-----|-----|

複 合 文 字 (2)

- | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|
| 1 仲 | 2 冲 | 3 忠 | 4 若 | 5 佐 | 6 器 |
| 7 春 | 8 因 | 9 恩 | 10 央 | 11 英 | 12 関 |
| 13 送 | 14 規 | 15 贊 | 16 肖 | 17 消 | 18 底 |
| 19 紙 | 20 朗 | 21 娘 | 22 郎 | 23 浪 | 24 眼 |
| 25 銀 | 26 根 | 27 限 | 28 退 | 29 既 | 30 阿 |
| 31 河 | 32 何 | 33 荷 | 34 奇 | 35 寄 | 36 練 |
| 37 煙 | 38 要 | 39 粟 | 40 標 | 41 階 | 42 駅 |
| 43 沢 | 44 訳 | 45 守 | 46 村 | 47 討 | 48 冠 |
| 49 団 | 50 導 | 51 付 | 52 府 | 53 寺 | 54 詩 |
| 55 持 | 56 待 | 57 等 | 58 時 | 59 年 | 60 秒 |
| 61 量 | 62 重 | 63 種 | 64 動 | 65 働 | 66 慣 |
| 67 負 | 68 免 | 69 勉 | 70 近 | 71 質 | 72 所 |
| 73 折 | 74 純 | 75 昇 | 76 兵 | 77 浜 | 78 科 |
| 79 約 | 80 睡 | | | | |

第 5 回

発音文字

- 1 円 𠄎𠄎𠄎 2 鬼 𠄎𠄎𠄎 3 告 𠄎𠄎𠄎 4 事 𠄎𠄎𠄎 5 生 𠄎𠄎𠄎 6 争 𠄎𠄎𠄎
7 对 𠄎𠄎𠄎 8 拝 𠄎𠄎𠄎 9 反 𠄎𠄎𠄎 10 民 𠄎𠄎𠄎

漢数字 (二) (十干)

- 1 甲 𠄎𠄎𠄎 2 乙 𠄎𠄎𠄎 3 丙 𠄎𠄎𠄎 4 丁 𠄎𠄎𠄎 5 戊 𠄎𠄎𠄎 6 己 𠄎𠄎𠄎
7 庚 𠄎𠄎𠄎 8 辛 𠄎𠄎𠄎 9 壬 𠄎𠄎𠄎 10 癸 𠄎𠄎𠄎

複合文字 (3)

「発音文字」を部首として含む文字

- 1 星 𠄎𠄎𠄎 2 仮 𠄎𠄎𠄎 3 坂 𠄎𠄎𠄎 4 阪 𠄎𠄎𠄎 5 板 𠄎𠄎𠄎 6 飯 𠄎𠄎𠄎
7 返 𠄎𠄎𠄎 8 版 𠄎𠄎𠄎

「漢数字 (二) (十干)」を部首として含む文字

- 9 押 𠄎𠄎𠄎 10 乱 𠄎𠄎𠄎 11 打 𠄎𠄎𠄎 12 町 𠄎𠄎𠄎 13 灯 𠄎𠄎𠄎 14 頂 𠄎𠄎𠄎
15 貯 𠄎𠄎𠄎 16 庁 𠄎𠄎𠄎 17 成 𠄎𠄎𠄎 18 誠 𠄎𠄎𠄎 19 城 𠄎𠄎𠄎 20 感 𠄎𠄎𠄎
21 減 𠄎𠄎𠄎 22 紀 𠄎𠄎𠄎 23 記 𠄎𠄎𠄎 24 起 𠄎𠄎𠄎 25 辞 𠄎𠄎𠄎 26 任 𠄎𠄎𠄎
27 賃 𠄎𠄎𠄎

複合文字 (4)

紹介し落としたもの二十三字

- 1 映 𠄎𠄎𠄎 2 革 𠄎𠄎𠄎 3 揮 𠄎𠄎𠄎 4 禁 𠄎𠄎𠄎 5 筋 𠄎𠄎𠄎 6 形 𠄎𠄎𠄎
7 研 𠄎𠄎𠄎 8 県 𠄎𠄎𠄎 9 吾 𠄎𠄎𠄎 10 孔 𠄎𠄎𠄎 11 乳 𠄎𠄎𠄎 12 祭 𠄎𠄎𠄎
13 際 𠄎𠄎𠄎 14 察 𠄎𠄎𠄎 15 算 𠄎𠄎𠄎 16 実 𠄎𠄎𠄎 17 捨 𠄎𠄎𠄎 18 洗 𠄎𠄎𠄎
19 箱 𠄎𠄎𠄎 20 批 𠄎𠄎𠄎 21 弁 𠄎𠄎𠄎 22 訪 𠄎𠄎𠄎 23 郵 𠄎𠄎𠄎

第 6 回

紹介し落とした文字、および

基本文字にない象形文字・会意文字二十二字

- 24 沿 𠄎𠄎𠄎 25 価 𠄎𠄎𠄎 26 簡 𠄎𠄎𠄎 27 寒 𠄎𠄎𠄎 28 漢 𠄎𠄎𠄎 29 官 𠄎𠄎𠄎
30 館 𠄎𠄎𠄎 31 管 𠄎𠄎𠄎 32 追 𠄎𠄎𠄎 33 貴 𠄎𠄎𠄎 34 遺 𠄎𠄎𠄎 35 求 𠄎𠄎𠄎
36 去 𠄎𠄎𠄎 37 法 𠄎𠄎𠄎 38 勤 𠄎𠄎𠄎 39 兼 𠄎𠄎𠄎 40 困 𠄎𠄎𠄎 41 妻 𠄎𠄎𠄎
42 勝 𠄎𠄎𠄎 43 植 𠄎𠄎𠄎 44 値 𠄎𠄎𠄎 45 針 𠄎𠄎𠄎

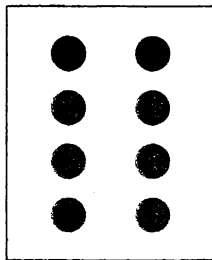
紹介し落とした文字、および

基本文字にない象形文字・会意文字二十三字

- 46 昔 𠄎𠄎𠄎 47 借 𠄎𠄎𠄎 48 倉 𠄎𠄎𠄎 49 操 𠄎𠄎𠄎 50 束 𠄎𠄎𠄎 51 速 𠄎𠄎𠄎
52 策 𠄎𠄎𠄎 53 潮 𠄎𠄎𠄎 54 肺 𠄎𠄎𠄎 55 背 𠄎𠄎𠄎 56 半 𠄎𠄎𠄎 57 晚 𠄎𠄎𠄎
58 秘 𠄎𠄎𠄎 59 飛 𠄎𠄎𠄎 60 富 𠄎𠄎𠄎 61 福 𠄎𠄎𠄎 62 仏 𠄎𠄎𠄎 63 僕 𠄎𠄎𠄎
64 無 𠄎𠄎𠄎 65 余 𠄎𠄎𠄎 66 除 𠄎𠄎𠄎 67 令 𠄎𠄎𠄎 68 領 𠄎𠄎𠄎

【附】第一基本文字（一マス漢点字）

行\段	あ	い	う	え	お
あ		糸 系 比 数	家 宿 学	言 語	頁 貝
か	金	木	草	犬	子
さ	都	市	発	食	馬
た	田	竹	土	手	戸
な	人 仁	水 氷	力	示	私
は	走	進 火	女	玉	方
ま	石	耳	車	目	門
や	病		行		店
ら	月 肉	分 日	性 心	口 困	十 止



横浜漢点字羽化の会
代表：岡田健嗣（外）
TEL (03) 3613-3160